

令和8年度 第2回江別市立病院経営評価委員会 議事録

○日時

令和8年8月20日(木)18:00～19:00

○場所

江別市立病院 2階 講義室

○委員

出席:西澤寛俊 委員(委員長)、西村正治 委員、笹浪哲雄 委員、廣島孝 委員、高田明 委員

欠席:石井吉春 委員(副委員長)、水野克也 委員、荒瀬博士 委員、田中いずみ 委員

○その他出席者

江 別 市:後藤好人 市長、川上誠一 副市長、

白石陽一郎 総務部長、植村吏 総務部次長、柴田佳典 財務室長、

四條省人 健康福祉部長、及川正男 健康推進室長、佐藤卓也 地域医療担当参事

市立病院:長谷部直幸 病院事業管理者、奥井一恵 看護部長、岩渕淑仁 事務長、

中村哲也 事務局次長、加茂順一 経営企画室長、阿部明美 総務課長、

大津崇輔 経営企画課長

○傍聴者

12名

○次第

1. 委嘱状交付(委員長・副委員長選出)

2. 開会

3. 市長挨拶

4. 議事

(1)報告事項

①病院事業経営状況(4～6月分)について

②「開院75周年記念事業 病院まつり」の開催について

(2)協議事項

①令和7年度 点検・評価に関する意見書(案)について

(3)その他

5. 閉会

【議事録】

西澤委員長	——— 議事(1)報告事項 ① ——— 報告事項①病院事業経営状況(4月～6月分)について、事務局から説明願います。
経営企画課長	(資料1 P1「令和8年度診療収益の状況」説明) (資料1 P2「令和8年度病院事業経営状況調」説明) (資料1 P3「入院実績と計画」説明) (資料1 P4「外来実績と計画」説明) (参考資料「令和8年度病院事業経営状況調べ」説明)
西澤委員長	事務局から説明がありましたが、各委員から質疑等ございますか。
西村委員	当初計画に比べて、大変良い成績をご教示いただいたと思います。特に6月は4～5月と比較して5千万円の増となっており、このうち2千万円が診療報酬改定によるもので、3千万円は、入院患者が増えていることによるものであると説明いただきました。病床稼働率を見ると、一般病棟で4～5月は71%台でしたが、6月には81%を超えています。一般病棟の稼働率が10%(ポイント)も上がるというのは、驚異的であると思います。何らかの要因があったのだらうと思うのですが、教えてください。
経営企画課長	6月は救急の受け入れが多く、患者数の増につながりました。また、手術の件数も多く、全身麻酔による手術件数が初めて月100件を超えております。そういった要因により、6月は一般病棟の稼働率が高くなりました。
西村委員	救急患者の受け入れや手術件数の増加というのは、大変良いニュースであると思います。今後も期待してよい傾向と考えて良いのでしょうか。
事業管理者	ご質問ありがとうございます。大変重要なポイントであると考えております。私どもとしては継続されることを期待しておりますし、そのようになるよう頑張らましよう、昨日の運営会議でもみんなと示し合わせたところがあります。やはり患者さんに集まっていたかかないことには、医療が成り立っていかない、安定しないということが一番大きいところでありまして、どのようにして患者さんに私どもの病院を選んでいただけるかということを原点回帰で考え、取り組んでいるところでありまして、その成果が現れてきていると考えております。 それから市民の皆さん、あるいは市内の医療機関の皆さんに、我々が提供している医療について認知度をもっと上げていかなければいけない、PRしきれていない部分があるのではないかと常に考え、各分野・各部門に情報を徹底して周知していこうということを、呼びかけております。そうい

西澤委員長	ったことを積み重ねていくことで、患者さんの増を維持することができるようにしていきたいと考えております。 ありがとうございます。資料1の1ページを見ていただくと、令和8年度の診療収益実績、黒い太線の部分ですが、これが6月に一気に伸びています。6月に診療報酬の改定があり、今回の改定は近年になく大幅なアップでしたのでその影響が大きく、4～5月実績と比べて5千万円増加しているのは改定の影響と考えていました。しかし先ほど説明を聞き、西村先生からもご発言があったとおり、5千万円のうち2千万円が診療報酬改定による増加で、残りの3千万円は実績による増ということで、驚いております。 診療報酬改定による2千万円の増は制度によるものであり、その効果は継続する要因と考えることができます。それにプラスして、実績による増加があるということで、その相乗効果によってこれだけ収益が上がったということ。6月時点でこれだけ上がっており、これから3月までこの勢いが続いたら、どれだけ黒字が出るのだろうと、期待しております。とはいえ、患者さんの受療動向にも波がありますので楽観視はできませんが、5月実績と6月実績の間くらいの収益は維持できるのではないかと勝手に予想しております。 医師の数も少しずつ増えていると報告をいただいております、収益が上がって余裕が出来てきた今、医療の質に対しても重点を置いていただき、スタッフの研修や、チームワークを促進する方法など、そういったところに少しお金を回して力を入れていただき、そしてさらに市民から評価されて患者さんが増えていく、そのような改善の循環に入ってきたと思いますので、ぜひ検討いただければと思います。今回、本当に良い報告を聞かせていただきました。 資料についてですが、診療報酬改定の影響を見たかったので、4～6月の単月実績に分かれたものを当日配布いただくよう事務局に依頼させていただきました。 他に質疑等ございますか。
委員	(なし)
西澤委員長	——— 議事(1)報告事項 ② ——— 次に、報告事項②開院75周年記念事業 病院まつりの開催について、事務局から説明願います。
経営企画課長	(資料1 P5～P8「開院75周年記念事業 病院まつり」の開催について」説明)
西澤委員長	事務局から説明がありましたが、各委員から質疑等ございますか。

事業管理者	一言、付け加えさせていただきます。今年がちょうど開院75周年であり何か記念の催しを、ということの中で出てきたアイデアから「病院まつり」を開催することとなりました。これを一つの起爆剤としまして、市民の方々に選んでいただける、愛される病院を目指して推進していくきっかけになればと、さまざまな取り組みを盛り込もうと考えております。資料にはいくつか現在決まっているイベント内容を記載し対応スケジュールも書かれておりますが、私も健康相談といいますか、少し医療相談的なコーナーを実施して、ぜひ聞いてみたいという市民の方々にお答えするような場を作ろうと思っております。ある程度時間を区切らせていただくことにはなっていますが、個別にお話ができるような場を設けたいと考えております。ご希望される全ての方というのは難しいことなのかもしれませんので、抽選などになってしまうかもしれませんが、待ち時間をなるべく短くして対応できるような、そういう健康相談、医療相談というものを考えていたりしております。当院においては初の試みでありますので、委員の皆さんにもぜひ応援していただければと思いますのでよろしくお願いいたします。
西澤委員長	江別市立病院としては初の試みとのこと、どういうものになるのか楽しみです。先ほど事務局から説明があったとおり、他の市立病院や民間病院などでも実施しているイベントで、どこも好評を得ていると伺っています。私も楽しみにしたいと思っております。ぜひお時間がありましたら参加いただきたいと思います。 他に質疑等ございますか。
委員	(なし)
西澤委員長	——— 議事(2)協議事項 ① ——— 次に、協議事項①令和7年度点検・評価に関する意見書(案)について、事務局から説明願います。
経営企画課長	(資料2 P1「令和7年度点検・評価に関する意見書(案)」説明)
西澤委員長	事務局から説明がありましたが、各委員から質疑等ございますか。
高田委員	内容的にどうのこうのということではなくて、字句について何点かちょっとどうかと思って、お話ししたいところですが、1ページ目の(2)江別市立病院を取り巻く諸情勢等という、そこで冒頭でね、令和6年度の収支の大幅な悪化を受けて、要するに見直しを8年度の予定を7年度に繰り上げたと言ってます、冒頭で。であれば、次のページのね、2ページの中段に大きな2番目のちょっと上ですけれども、令和6年3月に策定した「経

	営強化プラン」の見直しを前倒した、と同じことを言っているわけですよ。 それと3ページの下の方の4番目、令和8年度に向けた提言。これもまた市立病院では見直しを行った、と言っているわけですよ。同じことを3回言っているわけですよ。なので、後段の2つはいらないと、私は思います。文章修正すると、前後の言葉尻の関係はあると思うんですけども、その辺の微修正は必要なところですけども、同じことを3回も言うというのは、その必要性がないんじゃないかな、と。 で、もう1点なんですけれども、これも字句についてですけども3ページの(3)総合評価意見の4行目で、純損失を計上し、となっているんですけども、その前段でね、3億円の純損失を計上した、と断定しているわけですよ。それと同じことをまた純損失というのは、重複だからこれはいらないんじゃないか、と思いました。
経営企画課長	表現的なところだと思いますので、この辺りは修正をして委員長に確認したうえで、最終案を確定する形にしたいと思いますがいかがでしょうか。
西澤委員長	はい。それでは事務局で直していただいて、私の方で確認いたします。委員の方には修正したものを送りますので、よろしくお願いいたします。 他にはございますか。
西村委員	内科医の分野で発言させていただきます。循環器や消化器に関しては、センターを作って大変良い方向に向かっているということは、今日の説明でもよく分かったと思います。 私も呼吸器専門医なのですが、問題は呼吸器の診療体制がこの数年、全く改善の方向が見えないということで、私の理解では、確か大学からの派遣で1週間に2回だけ来てもらって外来をやっているという状況だと、聞いております。 その一方でですね、呼吸器内科医が大変足りない。需要に対して、供給が足りないという状況は、北海道大学ばかりではなくて、札幌医科大学、旭川医科大学を見ても、全く足りない状況です。それから絶対数で見ても、大学だけではなく呼吸器内科医は呼吸器患者の需要に対して、少ないという現実の中、病院の努力不足という説明で片付けられる問題ではないことは重々承知していますが、それを踏まえた上で私の提案です。 以前から申し上げていて、長谷部先生にも申し上げたことがあるのですが、外来に特化した医師の招聘を進めることだけでも、一歩前進になるのではないかと。入院患者も含めてということだと、一人で来てくれる医師はまずおりませんし、二人三人をまとめて入れないと入院患者までカバーするという状況にはならないので、非常に時間がかかってしまいます。今申し上げたように、呼吸器内科医の不足という絶対的な供給不足を考えた

	ら、なかなかすぐに到達できる目標ではないので、せめてですね、外来に特化した勤務形態の医師を、今までとは違った条件で雇用するということで、外来診療を充実させるということに取り組むのはいかがだろうか、と私は心から思います。外来患者は間違いなく増えますし、それから入院患者も、呼吸器専門医でなくても診れる、例えば肺炎ですとか、あるいはがんの患者の一時的な入院ですとか、終末期のケアですとか。いろいろな患者が増えることが予想されますので、まずは外来患者に特化した医師の招聘というのを、アイデアとして考えてみてはいかがか、ということをご提案させていただきたいと思います。 特に、子育てをしている女性医師の中には、外来だけやりたいという医師が、北大だけ探してもいないかもしれませんけども、三大学、あるいは北海道全体または道外も含めて探せば必ずいるので、そういった集め方、そういう医師の招聘の仕方を、ぜひご検討いただければと思います。
西澤委員長	意見書への記載ではなく、検討していただきたい提案事項ということでしょうか。
西村委員	あえて記載するのであれば、呼吸器の診療体制がまだ十分に至っていないという点について、一言入れていただくと良いと思います。
事業管理者	大変重要なお意見ありがとうございます。呼吸器だけではなく、さまざまな内科分野には、まだニーズを十分満たせていないところがありまして、順次どのような形で満たしていくか鋭意努力をしているところでございます。 呼吸器内科は、今現在は北海道大学の呼吸器内科から出張医により、週3回の外来と週1回の健診を担当いただいております、北海道大学の呼吸器内科と江別市立病院との歴史的な関係性を最重視しており、お手伝いいただける部分は、ありがたく受けているという状況です。 ただ、報道でもございましたが、非常勤医が病院を滅ぼすという特集がされるくらい、非常勤医をたくさん抱え込んでしまうと、報酬と外来収益の収支バランスで病院の負担が非常に厳しくなるという現実もございます。 西村先生がおっしゃる部分は、本当にその通りでありまして、外来だけでも担当できる常勤の医師ということも一つの考え方であると考えております。実は、来年の春になると思いますが、お一人そのような医師とお話をさせていただいております、医局とは関係のない人事にはなりますが、女性の医師でありまして、子育てもされており、外来専任で対応していただけるという話がございます。入院も十分診れるという方なので、呼吸器診療を充実させるために働いていただきたいと前向きに検討しております。内科系については様々な領域でネックになっている部分が多々ございまして、いろいろな形で充実させていかなければいけないところです。病棟を持って

	入院患者さんを診れる常勤の内科医というのは、本当に全国的に少なくなっています。皆さん、外来のお手伝いだけならばいいです、という形のお医者さんがたくさん応募してこられるのですけれども、たくさん来ていただいても、先ほど申し上げましたように経営的にはなかなかつながっていないという事情もございます。また、固定的な患者さんの獲得というところにも、なかなかつながりづらいということもございますので、常勤の内科医をどのような形で獲得していくかということについて、皆様のお知恵も拝借させていただきたいですし、具体的にそのような方がいるというお話がありましたら、いつでもお知らせいただければありがたいと思います。我々前向きに改善に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
西村委員	外来診療だけ担当する医師が増収につながらないというのは、あくまでパートタイムの場合のお話かと思います。例えば週4日を4人で担当したりしていると、次にどの医師に診てもらえるかわからないという状況になりますが、一人の常勤医が外来専任で診るという形を取れば、いつも同じ医師に診てもらえるため患者さんとしても良いと思います。また、他の分野の先生方ともコミュニケーションが取りやすいですから、入院患者が増えるだろうという期待もあります。外来診療だけであっても、常勤として雇うことで前向きにとらえることができるのではないかと。
事業管理者	ありがとうございます、その通りです。ただ、外来だけで収益を上げていただくのは限界がありますので、やはり入院対応ができる方を優先して採用していきたいとは考えております。今度来ていただく呼吸器内科の女性医師は外来を専門でやっていただくのですが、入院の一部も対応していただくということで話を進めておりますので、北大の呼吸器内科の先生方と協力して取り組んでいただくことを期待しています。実際、働いてみていただかないことにはどのような形になるかは分かりませんが、私はいつも新しい医師をお迎えする時は、セーフティーネットをうるさく設定しております。一定期間やっていただいて、お互いに不都合なところがあれば、これはそこを以って終了という形にしましょう、ということでもいつも申し上げております。
西澤委員長	ありがとうございます。西村先生のご意見に沿う形で、今現在、実際に動いているということですので、意見書の中には記載しないということでもよろしいでしょうか。
委員	他に質疑等ございますか。 (なし)

西澤委員長	ありがとうございます。私からも一言、申し上げます。今本当に業績が良くなっておりますけれども、先ほど申し上げた新たな地域医療構想というものがあまして、これは2040年に向けて人口が減っていき、85歳以上の方の割合が増えていく中で、医療提供体制をどのようにしていくかを示すものとなります。江別市とその周辺地域においても、地域の中で連携しながら対応していくことが必要であり、大切なことであると思います。地域医療連携推進法人も設立されました。 今現在は市立病院が頑張って患者さんを増やし、稼働も増えて収益が上向いていますが、2040年に向けては必ず縮小しなければならないフェーズがやってきます。そのことを踏まえて、新たな地域医療構想に書いてあるのは、2040年に自分たちの病院がどのようになっているかを2028年までに決めるよう要請されています。2040年に地域の人口がどうなっていて、受療動向がどう変化しているのかを予想し、地域で話し合いながら医療提供体制を少しずつ縮小していくことも考えられると思います。 そのような視点で見ると、これからは拡大の方向だけではなく、縮小、そしてやはり最も重要な連携ですね。地域で連携して医療提供体制を守る、そのような取り組みが必要ですので、ぜひ江別でも市立病院が中心になりリードしながら進めていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
西澤委員長	——— 議事(3)その他 ——— 次に、(3)その他について、各委員から何かありますか。
委員	(なし)
西澤委員長	事務局から何かありますか。
経営企画課長	次回委員会の日程につきましては、委員長とご相談の上、後日日程を調整させていただきます。よろしくお願いいたします。
西澤委員長	ありがとうございます。今までは、どうやって収入を増やし、赤字を無くすかという事を、委員のみなさんと苦しい議論を重ねて頑張ってきました。今、状況が変わりまして、本当に経営的には安定してきたと思います。油断しないで継続いただければ経営的には問題ないと思いますので、期待しております。 これからは、先ほどご紹介しました新たな地域医療構想に基づき、地域全体を見渡して、周りの医療機関の状況も踏まえた上で、地域の中核病院として医療提供体制をどのようにしていくかという視点で考えていけたらと思います。今後の委員会では、今までと違う観点から議論できると思いますし、委員の皆さんと共にもう少し頑張っていきたいと思っておりますのでよろ

西村委員	しくお願いいたします。 それでは、他に何もなければこれで終了しますがよろしいでしょうか。
事業管理者	最後に一点質問させてください。地域医療連携推進法人であるメディカルアライアンス江別が今年の4月に設立されましたが、何か具体的な動きはありますか。 着々と、様々な動きを展開しているのですが、表立って皆さんにアピールできる所までは至っておりません。現在のところはまだ2病院の連携ですので、両病院の各部署が集まりまして、それぞれでどのような連携ができるかということを検討しているところです。診療、医療の展開の面で実際に連携するということが一番肝になる部分だろうと思いますので、いくつかの診療領域で、具体的に医師や患者さんが行き来して、それぞれの病院を活用して疾患に対応する、ということを実践的に動かそうということをしております。 ちょうど市立病院の循環器内科で、心臓カテーテル検査、治療を行う機器が老朽化により更新時期を迎えておりまして、更新工事のためにひと月、機器の使用が休止となります。この機器を使った診療ができない期間となりますので、溪和会江別病院と連携推進法人の関係を元に、当院から患者さんを連れて当院の医師が先方に伺い、検査・治療を行うというようなことをまず循環器の領域でやりましょう、というようなことを詰めまして、具体化できるところまで来ております。 将来的には、消化器内科において、当院が得意とする分野と溪和会江別病院が得意とされる分野とが、ちょうど重ならないということがありますので、それぞれの得意分野を生かして連携したいと考えております。 医療の連携のほかにも、物品購入などの面で、収支改善につながるような情報交換ですとか、より良い条件を生み出していくような取り組みも進めたいと考えております。
西村委員	ありがとうございます。急性期の総合病院同士の連携ということで、私の理解では全く新しい取組ですから、今おっしゃったようにできるところからでもですね、ぜひ前向きに進めていただければと思います。ぜひ良いロールモデルになることを期待しています。
西澤委員長 委員	ほかに何もなければ終了しますが、皆さんよろしいでしょうか。 (了)
西澤委員長	—— 閉会 —— それでは以上をもちまして、令和8年度第2回「江別市立病院経営評価委

	員会」を終了します。 19:00 閉会
--	-----------------------------------